

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
哲学B		哲学としての精神分析入門		関 修	1年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	精神分析、フロイト、ユング、ラカン、カウンセリング			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		哲学A				
講義の目的	私＝自我＝自己意識というものの自明性は「無意識」という心のもう半分の部分の発見で大きく揺らいだ。精神医学、心理学との関係性の中で「精神分析」がどのように現代を生きる上で重要な学問であるかを哲学的に考察する。また、カウンセリングが言語を介することの重要性を理解する。					
到達目標	自分自身の心を見つめるヒントを得、適切な行動を取れるようにする。また、異性やマイノリティなど他者への理解を持ち、社会的に自立した人間性を確立する一歩を踏み出せるようにする。					
講義内容	カウンセリングの基礎となった「精神分析」について、その誕生から現在までを概観する。その際、精神医学、心理学との関係性を考慮する。また、フェミニズムやLGBTといった現代の問題との関連性を積極的に取り上げる。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	ガイダンス	精神分析とは何か？この講義の勉強の仕方について			
	第2講	はじめに	無意識の発見 精神分析前史			
	第3講	精神分析の位置づけ I	精神医学との関係			
	第4講	精神分析の位置づけ II	心理学との関係			
	第5講	精神分析の位置づけ III	フロイトとユング			
	第6講	精神分析の位置づけ IV	フロイトからラカンへ			
	第7講	フロイト I	精神分析の創設 催眠から自由連想法へ			
	第8講	フロイト II	夢の解釈			
	第9講	フロイト III	心を動かす力としての性 リビドー、欲望			
	第10講	フロイト IV	超自我の導入 死の欲動			
	第11講	ラカン I	出発点としての鏡像段階論			
	第12講	ラカン II	三界理論 現実界 想像界 象徴界			
	第13講	ラカン III	シニフィアンの連鎖			
	第14講	ラカン IV	カウンセリングの在り方 短期分析			
第15講	まとめ	これからの精神分析				
指導方法	講義中心。毎回、Google Classroomを用いて、質問・感想・意見を「課題」として出し、次回それらに回答する。					
事前学習	Classroomに掲載された次回の授業の資料に目を通す等、30分程度。					
事後学習	Google Classroomの「課題」機能を用いて、次回の講義の前日までに質問等を必ず提出すること。また、参考文献なども掲示するので必要のある者は適宜読むと好ましい。時間としては「課題」だけであれば、30分もあれば充分であろう。					
成績評価方法	平常点（授業内発言、課題の提出回数・内容）70%、本試験（筆記試験、すべて持ち込み可）30%					
テキスト	特に定めない					
参考書籍	サミュエルズ、関修訳、『哲学としての精神分析入門』（夏目書房） 他は適宜紹介していく。					
特記事項	講義中の私語は禁止 減点の対象となります					